

柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会
(千葉県・柏市・千葉大学・東京大学・
UR都市機構・三井不動産)
2019年11月

柏の葉国際キャンパスタウン構想

KASHIWA-NO-HA International Campus Town Initiative



2019



2001年



三井柏ゴルフ倶楽部
1961-2001



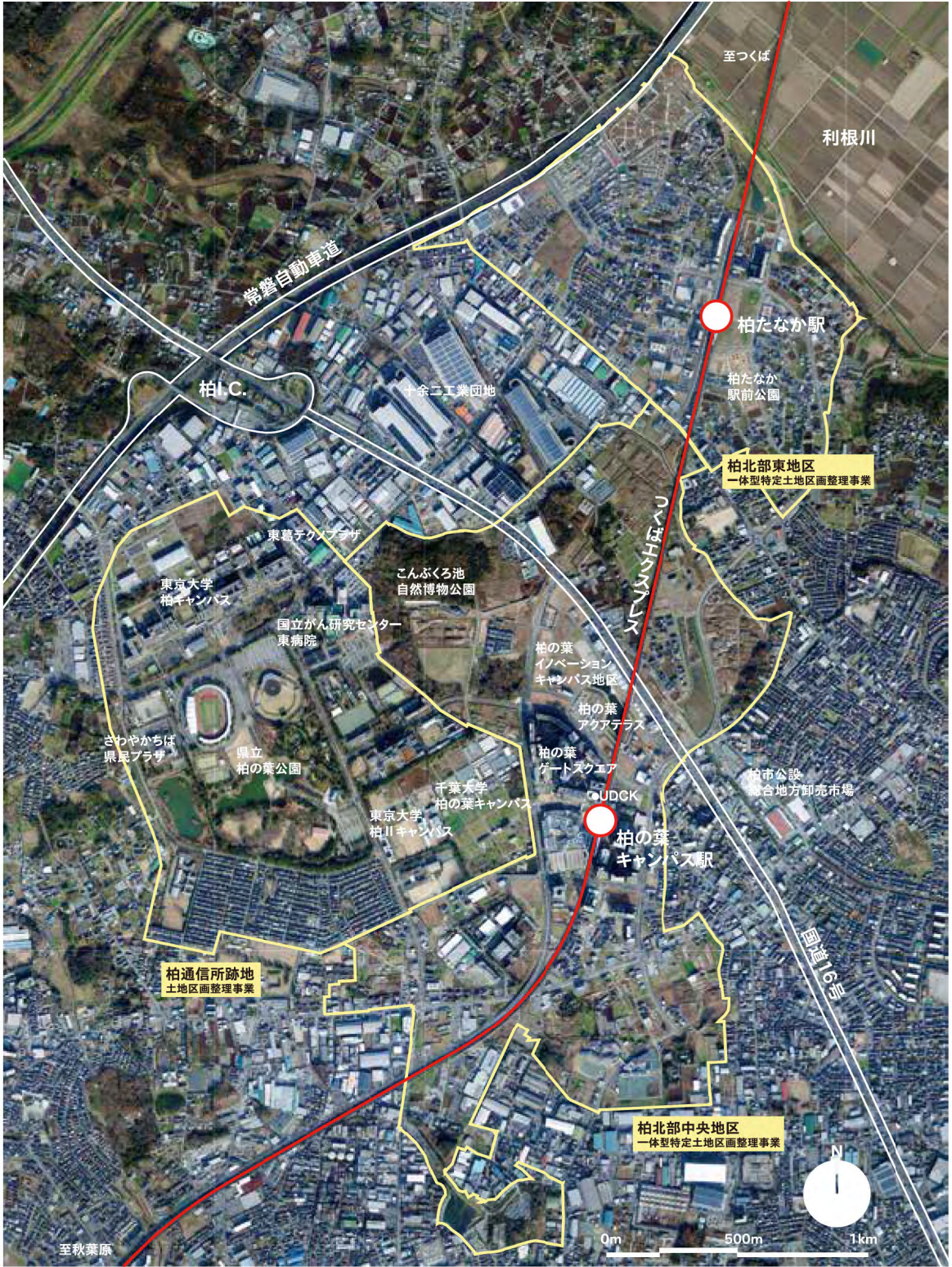
千葉大学柏の葉キャンパス
1991-



東京大学柏キャンパス
2000-

柏通信所跡地土地区画整理事業
1984-1990
国立がん研究センター東病院
1992-
県立柏の葉公園
1999-

2019年



UDCK
2006-



柏の葉グレートスクエア
2014-



柏たなか駅前公園
2018-

柏北部中央地区一体型特定土地区画整理事業
2000-
柏北部東地区一体型特定土地区画整理事業
2001-2017
つくばエクスプレス
2005-
柏の葉アクアテラス/イノベーションキャンパス地区
2016-

通信所跡地の開発

TX沿線まちづくり(計画構想/基盤整備/主要施設)

主要プロジェクト・イベント・組織



つくばエクスプレス沿線地域 産業・都市づくり懇談会 2003-2004

千葉大学環境健康フィールド科学センター開設(柏農場から改組) 2003.4

柏北部東地区一体型特定土地地区画整理事業 事業認可 2001.3

柏北部中央地区一体型特定土地地区画整理事業 事業認可 2000.8

東京大学柏キャンパス開設(宇宙線研究所、物性研究所) 2000.3



1999.4 千葉県立柏の葉公園完成

1998.4 東京大学大学院新領域創成科学研究科設置
(2001.3より柏キャンパスに順次移転)

1996.3 「緑園都市構想」策定(柏市)

1994.1 常磐新線起工式(秋葉原・新浅草間)

1992.7 国立がんセンター(現・国立がん研究センター)東病院開院

1991.4 千葉大学柏農場発足(校内農場を廃止し移転)

1984.3 柏通信所跡地土地地区画整理事業 事業認可 ~1990.3(換地処分)

1979.8 米軍柏通信所 全面返還

第1回アジア・アントレプレナーシップ・アワード(AEA)開催 2012.5

一般社団法人柏の葉アーバンデザインセンター設立 2011.12

柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会設立 2011.7

内閣府より柏市が環境未来都市、地域活性化総合特区指定 2011.12

柏の葉街まるごとキャンパス月間初開催 2011.10

「世界の未来像をつくる街」共同記者発表 2011.7

UDCK第2期施設移転オープン 2010.9

柏たなか農あるまちづくり始動 2010.4

柏たなかに環境コンビニエンスーション開設 2010.4



2008.3 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」策定

2007.11 第1回ピノキオプロジェクト開催

2007.8 第1回ふるさと田中みこし祭り開催

2007.5 UDCkまちづくりスクール開始

2006.11 UDCk開設

2006.11 ららぽーと柏の葉 開業

2005.12 全国都市再生モデル調査の採択(柏・流山地域)

2005.8 つくばエクスプレス開業



2019.11 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」改定

2019.4 産業技術総合研究所柏センター本格稼働

2017.6 柏北部東地区土地地区画整理事業 完了

2016.9 柏の葉イノベーションキャンパス地区 LEED-NDプラチナ認証

2014.7 柏の葉ゲートスクエア グランドオープン

2014.4 UDCk第3期施設移転オープン

2014.4 柏の葉オープンイノベーションラボKOILオープン

2014.4 柏の葉キャンパス駅西口高質化完了 UDCkによる道路管理開始

2014.3 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」充実化



柏の葉国際キャンパスタウン構想とは

背景・目的・経緯

まちのポテンシャルを最大限に生かして社会課題解決モデル都市づくりを実践するための構想

我が国では、人口減少や少子高齢化、環境・エネルギー、防災、経済活力などの様々な課題への対応に加え、ライフスタイルの多様化や、テクノロジーの発展などにも対応した、新たな都市像の確立が求められています。また、SDGsという世界的な共通課題への視座も、これからの都市づくりには不可欠です。

現在、大規模開発が進行する柏の葉地域は、我が国有数の大学や研究機関が立地しており、世界水準の新しい都市づくりを進めるうえでの高いポテンシャルを持っています。その実現には、研究機関や企業が主導して先導的なプロジェクト群を仕掛け、一方で、市民を含めた学びや交流を通じて、新たな時代のコミュニティやライフスタイルを創り出すことが重要です。本構想は、地域の関係者である千葉県・柏市、大学、民間企業、市民・NPO等が連携・協働し、柏の葉のポテンシャルを最大限に生かした先端的で自立した都市づくりを実践していくための共通の拠り所として、2008年3月に策定されました。2014年3月の「充実化版」においては、社会課題解決モデルとしての「環境共生都市」「健康長寿都市」「新産業創造都市」の三本柱を明示しました。今回の改定では、従来の理念や目標の枠組みは維持したうえで、特に以下の3点をポイントに、内容の修正・強化を行いました。

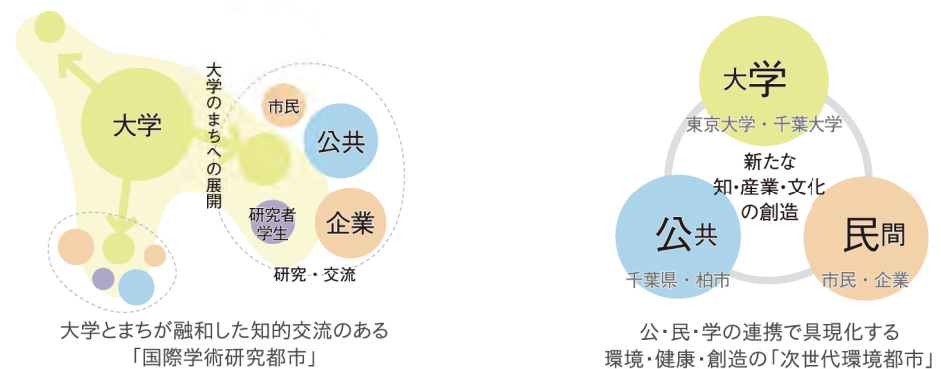
- ①大学や研究機関と連携した研究施設や関連企業の誘致に一層力点を置き、先端テクノロジーを活かしたデータ駆動型まちづくりの実践を打ち出したこと
- ②既に区画整理エリア内だけでも1万5千人を超える居住者が暮らし、コミュニティも徐々に成熟しつつあるなか、地域の文化創造やより豊かな暮らし方・働き方の実現に向けた方針・施策を強化したこと
- ③世界的な課題であるSDGsとの対応から柏の葉地域で取り組むべき課題を再整理したこと

理念

公・民・学の連携による「国際学術研究都市」「次世代環境都市」

“大学とまちの融和”、すなわち、まち全体が大学のキャンパスのように緑豊かで質の高い空間となり、知的交流(学び合い)の場となることが、柏の葉国際キャンパスタウン構想の目指す都市の姿です。

その実現のために、地域社会に必要な公的サービスを担う「公」、地域の活力と魅力の向上を担う「民」、そして専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「学」の各主体が、従来の枠組みを超えて連携します。「公・民・学の連携」を背景とした知的交流の中から、新たな知と産業、文化を創造する「国際学術研究都市」となり、これを通じて、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される、持続性・自律性の高い「次世代環境都市」の形成を目指します。



位置づけ

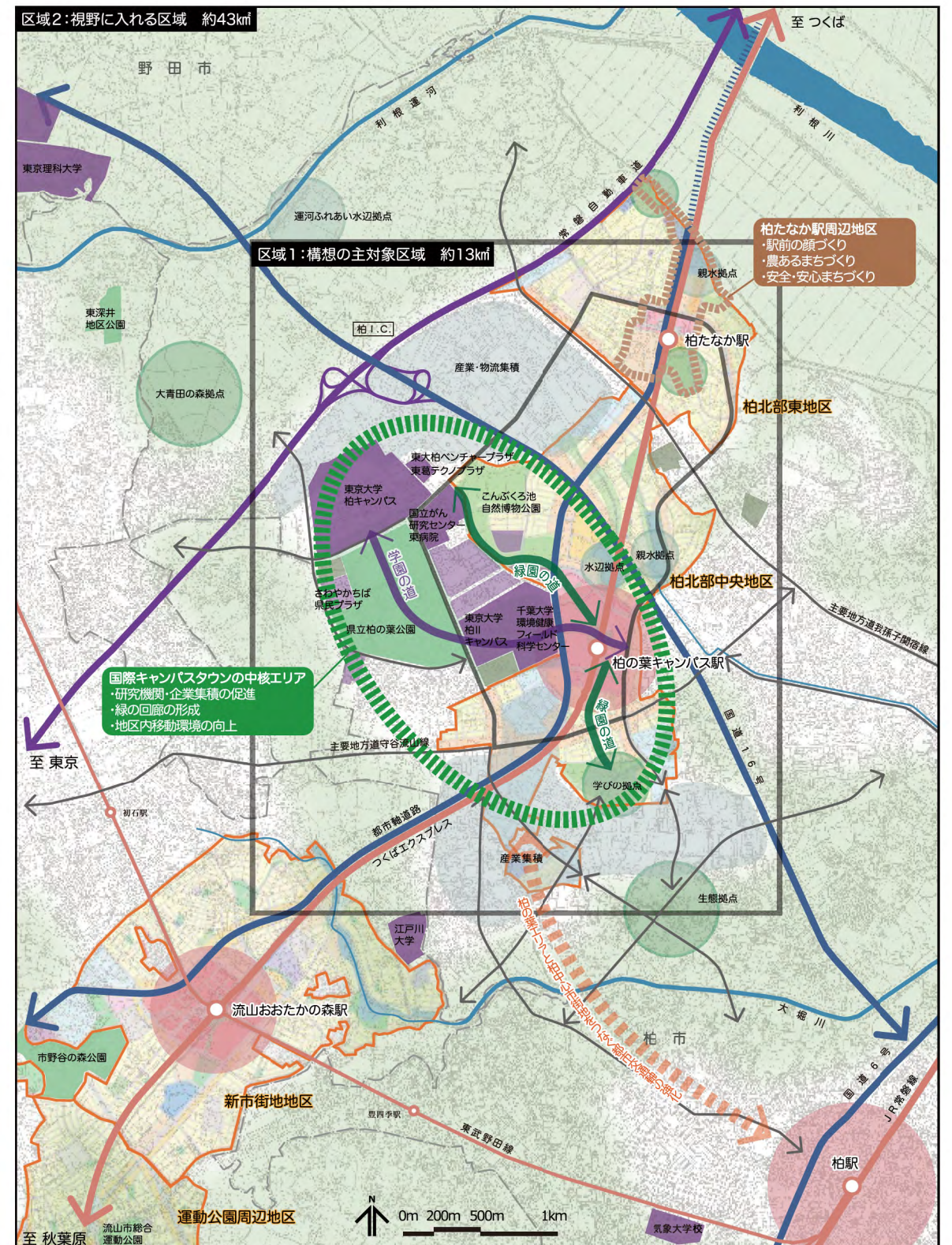
公・民・学の連携による継続的なフォローアップ

この構想は、これからの社会を見据えた新しい政策テーマを先取りしているため、現在の法制度や政策を超えた提案も含まれています。そのため、今後とも各団体内部での更なる検討や関係機関との調整を行い、上位計画へのフィードバック、フォローアップを行いながら、実現を図っていきます。必要に応じて、この構想の見直しも含めて運用していきます。

具体的には、「公・民・学」が共同で設立・運営する柏の葉アーバンデザインセンター〔UDCK〕を事務局として、継続的にフォローアップのための委員会並びにテーマ別の部会を設置し、各団体の協力・連携のもと本構想を推進します。柏の葉地域をモデルに先行的・実験的施策を実施し、その成果・知見を柏市や千葉県全域、全国、全世界に展開していきます。

对象区域

本構想の対象区域は、主として柏北部中央地区及び一部の柏北部東地区の区画整理区域を含む約13k㎡(区域1)としています。ただし、緑地のネットワーク形成や柏駅とのつながり等については、広域的に取り組む必要があるため、柏駅や利根運河、流山市も含めた約43k㎡(区域2)も視野に入れています。



8つの目標

目標

1

環境と共生する
田園都市づくり

- 受け継がれてきた自然環境・田園環境を活かした緑豊かなまち
- CO₂をできるだけ出さず、環境負荷をかけない暮らし方を無理なく・楽しく実現するまち



目標

2

創造的な
産業空間の醸成

- 大学や研究機関を核に、最先端の技術を持った人・企業が集まり、つながり、新しいビジネスが育つまち
- 暮らすことと働くことが調和したまち



目標

3

国際的な学術・教育・
文化空間の形成

- 世界中から研究者が集まる国際的な学術研究都市
- 多様な知識がつながり、未来を担う人材育成の場や世代を超えた学びの場が充実したまち



目標

4

サステナブルな
移動交通システム

- 公共交通や自転車、低環境負荷型の自動車など、環境負荷の小さい交通手段(モビリティ)でストレスなく移動できるまち



目標

5

健康を育む
柏の葉スタイルの創出

- ウォーカブルな都市空間、多様なコミュニティ、豊かな農文化・食文化を背景に、すべての世代が自ずと健康的なライフスタイルを実現するまち



目標

6

公・民・学連携による
エリアマネジメントの実施

- まちで活動をする様々な組織や一人ひとりが協力し、役割分担をすることで、将来にわたってまちの魅力を育てていくまち



目標

7

質の高い
都市空間のデザイン

- 豊かな緑と都市の賑わいが調和した、大学のキャンパスのような快適で楽しいまち
- 全体から細部のデザインまで配慮された美しいまち



目標

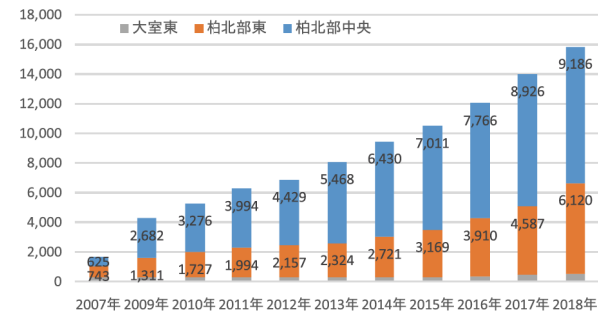
8

イノベーション・
フィールド都市

- 最先端の技術やアイデアの実証フィールドとして、まち全体で常に新しいものにチャレンジしながら、変化し続けるまち



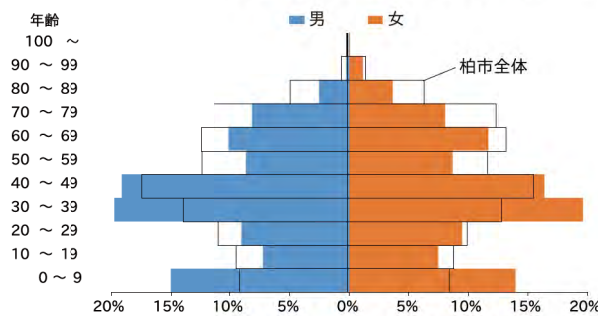
人口



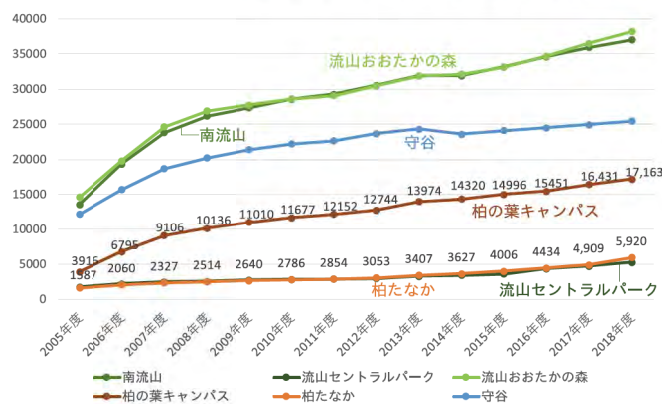
(補足)大室東地区は2014年度に計画変更により柏北部東地区外となった

世代構成

2018年4月
柏の葉国際キャンパスタウン構想の対象区域(区域1)※

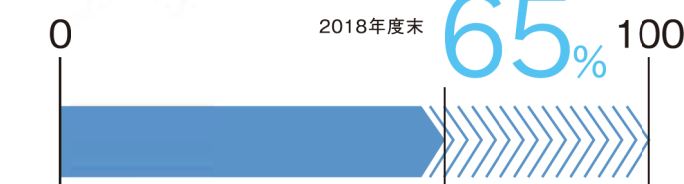


駅乗車人数(年度別一日平均乗車人員)

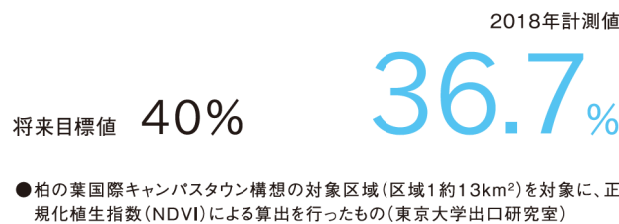


(出展) 首都圏新都市鉄道公開資料

区画整理進捗率(柏北部中央地区) (事業費ベース)

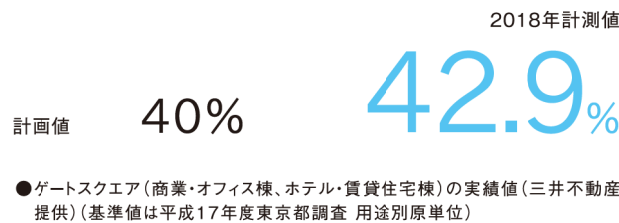


1 緑被率 …(目標1・目標7)



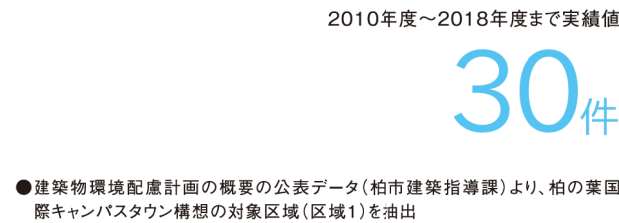
●柏の葉国際キャンパスタウン構想の対象区域(区域1約13km²)を対象に、正規化植生指数(NDVI)による算出を行ったもの(東京大学出口研究室)

2 (モデル街区における)CO₂排出削減量 …(目標1)



●ゲートスクエア(商業・オフィス棟、ホテル・賃貸住宅棟)の実績値(三井不動産提供)(基準値は平成17年度東京都調査 用途別原単位)

3 環境に配慮した建築物の棟数 (CASBEE Aランク相当以上) …(目標1)



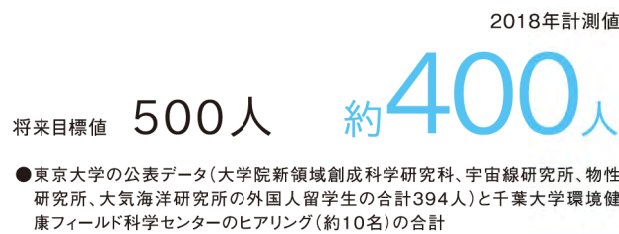
●建築物環境配慮計画の概要の公表データ(柏市建築指導課)より、柏の葉国際キャンパスタウン構想の対象区域(区域1)を抽出

4 事業所数 …(目標2)



●経済センサスによる柏の葉国際キャンパスタウン構想対象区域(区域1)内の事業所数

5 外国人研究者数 …(目標3)



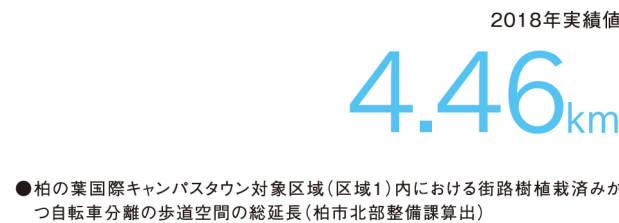
●東京大学の公表データ(大学院新領域創成科学研究科、宇宙線研究所、物性研究所、大気海洋研究所の外国人留学生の合計394人)と千葉大学環境健康フィールド科学センターのヒアリング(約10名)の合計

6 健康モニター登録数 …(目標5)



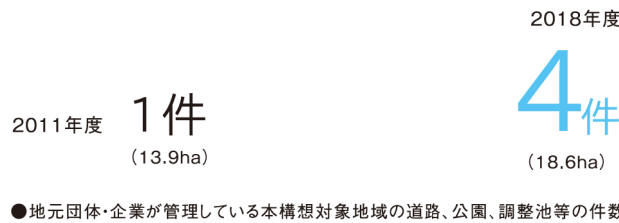
●まちの健康研究所あ・し・た の会員登録者数

7 ゆとりある(緑化+自転車分離)歩道空間の総延長 …(目標4・目標5・目標7)



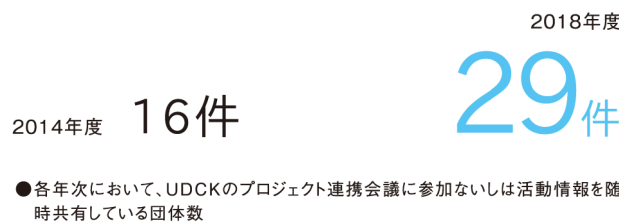
●柏の葉国際キャンパスタウン対象区域(区域1)内における街路樹植栽済みかつ自転車分離の歩道空間の総延長(柏市北部整備課算出)

8 地元で管理する公共的空間・公共施設数 …(目標6)



●地元団体・企業が管理している本構想対象地域の道路、公園、調整池等の件数

9 連携している地域活動数 …(目標6)



●各年次において、UDCKのプロジェクト連携会議に参加しないしは活動情報を随時共有している団体数

10 建築・都市デザインに係る受賞数累計 …(目標7)



●UDCK集計

11 地域をフィールドにした実証プロジェクト数 …(目標8)



●UDCK集計

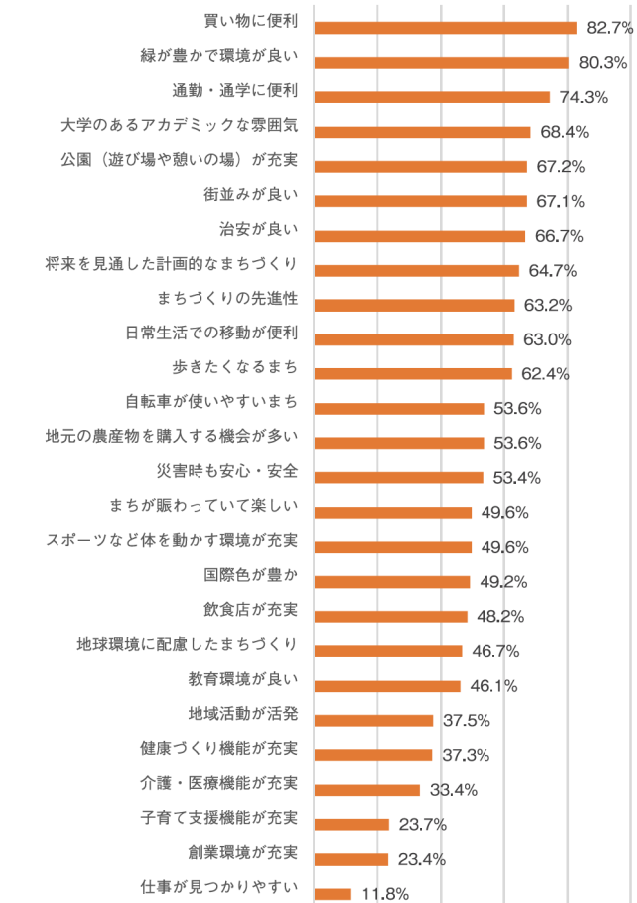
12 視察件数・視察者数 …(目標8)



●スマートシティツアー、UDCKスタッフトークの合計

住民によるまちの評価

・2016年度 柏の葉地区のまちづくりと暮らしのアンケート調査(柏市)
・対象:柏の葉キャンパスタウン構想中核エリア内に住む20歳以上の男女 N=595



環境と共生する 田園都市づくり

豊かな自然と都市のみどりにふれあいながら、
環境にやさしい暮らしを楽しめるまち

方針 1-1

生態系を育む「緑地ネットワーク」を保全し強化する
街区の緑化率25%、まちなみの緑被率40%維持

重点
施策

- | | |
|---|--|
| <p>1) 公共の緑地や水辺の保全・整備を通じた
骨格的な緑地ネットワークの保全・創出</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶こんぶくろ池自然博物館公園の生態系保全と公園整備 ▶2号調整池(アクアテラス)における水辺環境管理 ▶2号近隣公園・緑地・1号調整池が連携した水と緑の回廊の整備 ▶野馬土手遊歩道周辺の緑地環境の保全・創出 ▶緑のコアをつなぐ主要街路における街路樹の整備 ▶公共と民間の連携・役割分担による継続的な緑の維持管理 |
| <p>2) 民地内の緑地保全・創出の誘導による
緑地環境の形成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶民地内緑化の指導・誘導等による街区内緑化 25%の推進 ▶自然緑地の保全等に係る税の減免・補助等の取り組み ▶優良農地の保全・活用「柏たなか農あるまちづくり」 |
| <p>3) 農地の「保全活用システム」整備</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶菜園付き住宅の供給推進 ▶農商工大連携による都市近郊農業の育成に向けた取り組み |

方針 1-2

持続可能な開発や建築の「柏モデル」を普及する
個別開発におけるCO2削減率35%達成

重点
施策

- | | |
|--|--|
| <p>1) 再生可能エネルギー・未利用エネルギーの
利用促進と高効率なエリア・エネルギー管理</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶エリア・エネルギー管理システムの運用と拡張検討 ▶太陽光やバイオマス等の再生可能エネルギーの導入の促進 |
| <p>2) 環境技術の複合利用により、35%以上の
CO2削減を実現するモデル街区の形成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶柏の葉キャンパス駅周辺街区におけるモデル的な環境建築 ▶公共建築物におけるモデル的な環境建築 ▶LEED-NDに基づくイノベーションキャンパス地区の環境配慮型まちづくり ▶戸建住宅地区におけるモデル街区の形成 |
| <p>3) 柏独自の「環境まちづくりガイドライン」の
運用</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶「CASBEE 柏」の運用と普及 ▶低炭素型開発を推進する規制・誘導方策 |
| <p>4) サスティナブルキャンパスの実現</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶東京大学柏キャンパス ▶千葉大学柏の葉キャンパス |

方針 1-3

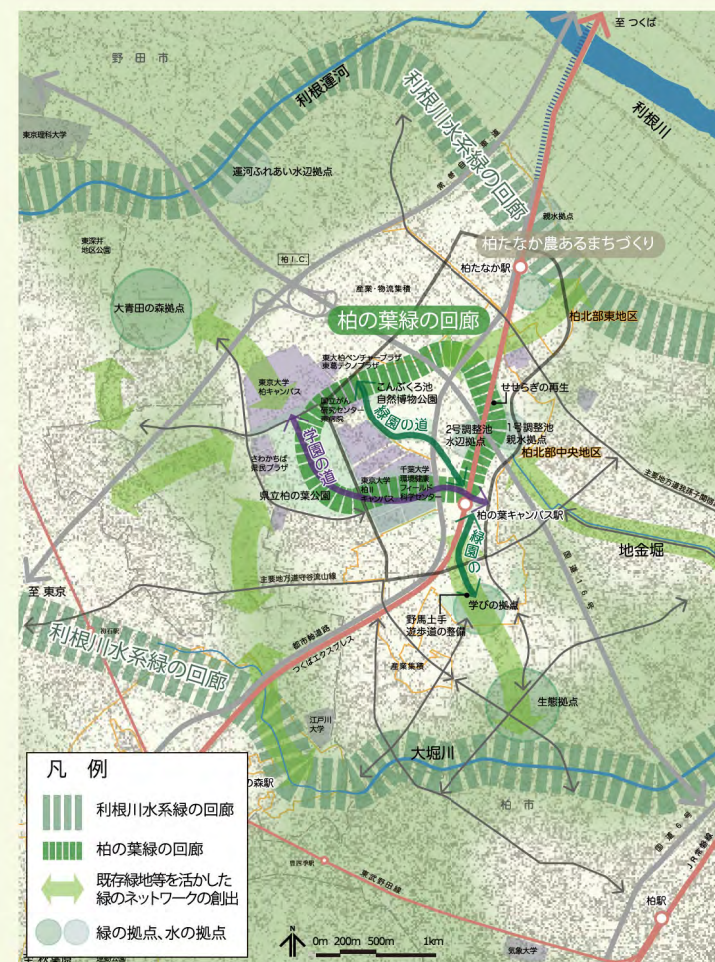
持続可能な開発に対する市民意識を高め、
市民主体で環境共生型のライフスタイルを推進する

重点
施策

- | | |
|--|---|
| <p>1) 持続可能性や環境について楽しく学べる
啓発・教育プログラムの展開</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶SDGsや環境に係る独自の教育プログラムの実施 ▶スマートシティツアー等の開催 ▶SDGsや環境に係る啓発活動の展開(かしわ環境フェスタ、かしわエコサイトなど) ▶市民組織等による住民主体のエコ活動の推進・支援 |
| <p>2) HEMSの導入促進と家庭レベルでの
CO2排出量削減の推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ▶ホームエネルギー管理システム(HEMS)の導入促進 ▶継続的なモニタリングと情報発信による日常的な省エネ行動の定着 |

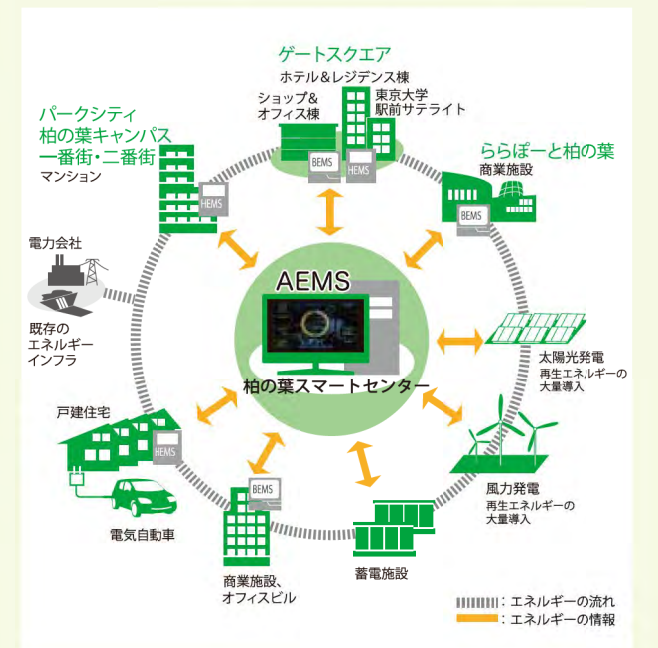
■ 緑地ネットワークの構造図 — 柏の葉緑の回廊の構築

新たに整備する道路や公共空間、敷地内緑地を既存の緑地空間と連続させ、柏の葉キャンパスを起点とする「柏の葉緑の回廊」を構築する。さらに周辺エリアにネットワークを広げ、利根川・利根運河・大堀川等の大きな自然空間(利根川水系緑の回廊)に接続する。



■ エリア・エネルギー管理システム(AEMS)イメージ

柏の葉キャンパス駅前街区では、発・受電量、消費電力量などエネルギー利用と地域互換の最適化を実現するコアとして「エリア・エネルギー管理システム(AEMS)」を構築。エリア拡張と機能の充実を図りながら将来的には柏の葉全域で「スマートグリッド」機能を備えたネットワークの構築を目指す。

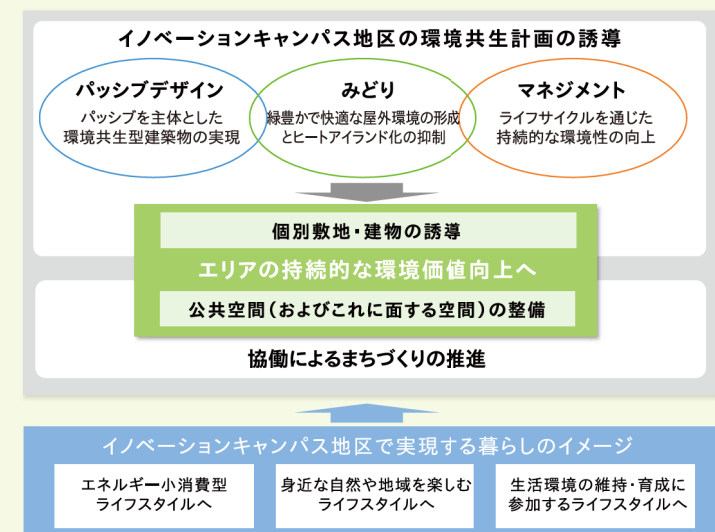


■ まちぐるみでの再生可能エネルギー利用促進イメージ

電力供給事業(電力小売事業)を行う「地域新電力会社」を官民共同で設立し、地域内外の発電所から再生可能エネルギー(グリーンエネルギー)を調達して、市の公共施設や柏の葉地域の施設等に電気を供給する仕組みを検討する。非化石市場証書を買入れ「CO2ゼロの環境都市実現」を目指し、将来的には、柏市内でのグリーン電力発電との連携を想定する。

■ 柏の葉イノベーションキャンパス地区における環境共生型開発誘導方針

柏の葉キャンパス駅北側の「イノベーションキャンパス地区」は、国際的な環境認証LEED-NDプラチナ認証を取得。環境共生型開発を誘導するための方針と具体的な基準を定めている。



▲ 事業スキームのイメージ



▲ 柏市全体での事業展開イメージ

創造的な産業空間の醸成

創造的な交流にあふれ、
職住が一体となった自立したまち

方針 2-1 TX沿線に集積する最先端技術・研究を活かす世界水準の創業環境「イノベーションコリドー」を実現する

- 重点施策
- 1) 技術・研究の事業化支援、沿線の技術系ベンチャー企業の育成支援
 - ▶新産業創造の本拠地KOILにおける31 VENTURES/TEPによる基本的なインキュベーション、ビジネス支援の提供
 - ▶起業支援に係る特色あるコンテンツの展開・誘致
 - 2) 産業創造に係る地域連携・広域連携の推進
 - ▶KOIL、東葛テクノプラザ、東大柏ベンチャープラザ、その他柏の葉エリアに存在するインキュベーション施設や支援機関と連携した創業支援、情報発信、プログラム提供
 - ▶TX沿線一帯を対象とした広域連携プログラムや総合的支援
 - 3) 国際的魅力的発見
 - ▶外国人や海外ベンチャー企業のビジネス拠点となるような環境の構築、情報発信
 - ▶AEA(アジア・アントレプレナーシップ・アワード)の継続的開催

- 重点施策
- 方針 2-2 大企業や研究機関などに対する魅力を明確に発信し、立地を促し、新産業創造コミュニティを充実させる
- 1) 新産業創出を牽引する大規模企業・研究機関等の積極的誘致・PR
 - ▶公・民・学それぞれのネットワークを最大限にいかした戦略的な企業誘致・PRの推進
 - 2) 企業進出に係る土地条件の整理や立地促進策の拡充
 - ▶イノベーションキャンパスにおける、居住・研究開発・業務・交流等の機能が複合した複合用途型産業創出地区の形成推進
 - ▶こんぶくろ池自然博物公園隣接街区(403街区等)における、立地や大規模敷地をいかした研究開発型産業創出地区の形成推進
 - ▶地域未来投資促進法に基づく支援策等を活用した企業や研究機関等の立地に対する助成や優遇策の充実
 - ▶広域アクセスの向上に向けた国道16号の改善
 - 3) AI・IoT関連機能の集積促進や連携・支援プログラムの強化
 - ▶産業技術総合研究所AI拠点の整備、体制・コミュニティの構築
 - ▶実証研究や連携プログラム等の促進(市民モニター制度の構築等)
 - 4) ライフサイエンス・メディカル関連機能の集積促進や連携・支援プログラムの強化
 - ▶国立がん研究センターと連携した研究開発機能の強化や関連産業集積の促進
 - ▶実証研究や連携プログラム等の促進

- 重点施策
- 方針 2-3 既存産業の高次化、環境改善と競争力の強化を図る
- 1) 東京大学フューチャーセンターを核とした大学と地元企業の連携による技術やビジネスの革新
 - ▶東京大学フューチャーセンターの開設と運営
 - ▶大学の教育・研究活動における地元企業との連携の推進
 - 2) 千葉大学環境健康フィールド科学センターにおける植物工場研究拠点の成果を生かした新たな都市型農業の育成
 - ▶植物工場研究拠点の研究開発と連携した民間ベースでの植物工場の事業化
 - ▶植物工場における生産物の地域内での流通促進
 - ▶家庭用植物工場の実証と事業化
 - 3) アートやデザインを通じた柏ブランドの創出
 - ▶イノベーション・デザインプロジェクトの推進

■ 土地利用戦略図

国際キャンパスタウンの実現に向け、教育研究機関の充実を図るうえで、柏の葉キャンパス駅から国道16号にかけた一帯を、複合用途型産業創出地区(イノベーションキャンパス)と位置づけ、エリア全体における産業立地をけん引する。また、千葉大学や東京大学を立地する柏の葉キャンパス駅西側の一帯を学術教育研究ゾーンと位置づけ、特にこんぶくろ池自然博物公園周辺の未利用街区「研究開発型産業創出地区」における企業や研究機関の誘致を図る。



■ 企業誘致・新産業創造のフォーカス分野と推進目標

柏の葉が持つ優位性を活かし、柏の葉ならではの「色」を打ち出せる以下2つの分野をフォーカス分野として、地域内外の関連コミュニティに戦略的・積極的に働きかけながら産業創造に繋げていく。

①AI・IoT分野

グローバルAI研究拠点の立地を活かし、AI活用に必要なデータの効率的収集を可能とするIoTの活用にも注目して、AI-IoT関連製品・サービスの積極的採用や実証実験等の取り組みを支援していくことで、関連分野の集積を促進していく。

- ＜柏の葉の優位性＞
- ・2019年春のグローバル AI 研究拠点の開設、およびそれに伴う関係各庁のリソースの投入。
 - ・IoT 事業の普及に強みとなる LoRaWAN の通信環境の広範囲にわたる整備。

②ライフサイエンス・メディカル分野

国立がん研究センターや東大柏ベンチャープラザ等が立地する優位性を活かし、ライフサイエンス、および、メディカルデバイス開発等の分野に重点を置き、関連プロジェクトの実証実験等の取り組みを支援することで、関連分野の集積を促進していく。

- ＜柏の葉の優位性＞
- ・国立がん研究センターの唯一の分院である東病院の立地と、同病院NEXT棟の立地。
 - ・東大柏ベンチャープラザ等へのライフサイエンス系企業の集積。

【推進目標】

＜短期～ 2018年度＞

- ・関係者協力のもと実証フィールド提供の体制を構築し、対外的発信を行う。
- ・フォーカス分野における具体プロジェクトを実際に柏の葉で始動させる。

＜中期～ 2020年度＞

- ・フォーカス分野における具体企業が複数、柏の葉エリアに立地。

＜長期～ 2030年度＞

- ・フォーカス分野における産業循環が柏の葉エリアに構築され、企業集積が実現。

学術教育研究ゾーン

- ・東京大学、千葉大学、国立がん研究センター東病院を核としながら、東大柏IIキャンパスや未利用街区を中心に、教育研修施設や研究開発施設の立地を促進し、ゾーン全体を日本有数の学術教育・研究開発ゾーンとする。
- ・街路や敷地内の緑化によって、柏の葉公園やこんぶくろ池公園等の緑豊かな環境をつなぎ強化する。
- ・移動動線の強化、公共交通の充実や自転車利用環境の向上によって、エリア内をストレスなく移動・回避できる環境を整える。

▶ 研究開発型産業創出地区(403街区と周辺)

- コンセプト: 豊かな緑に囲まれた立地と、がんセンターや東大・千葉大との近接性を活かした研究開発地区
- ・周辺の緑豊かな環境との調和を図りながら、大規模敷地を活かして、ライフサイエンスやAI関連などの企業や研究機関の誘致を図る。

多機能賑わいゾーン

- ・柏の葉キャンパス駅を中心に、商業・業務・住宅等の機能が高密度に集積するまちの中核ゾーンを形成する。
- ・豊かで選択性の高い歩行者空間ネットワークを構築するとともに、沿道建物低層部のセットフロントや店舗誘導等によって、賑わいある街路空間を形成する。
- ・景観形成への配慮や、環境共生型の建築によって、次世代都市のモデルとなる開発を継続的に推進する。

▶ 複合用途型産業創出地区(イノベーションキャンパス)

- コンセプト: 新たな郊外型のワーク・ライフスタイルが生まれ、多様な交流のなかからオープン・イノベーションが生まれるまち
- ・複合用途型開発によって、職住が近接し昼夜間人口バランスの取れたエリアとしながら、活気ある街路空間や水・緑を生かした快適な外部環境を創出する。

■ TX沿線の「イノベーション・コリドー」

日本有数の国立大学や研究機関が集積するつくばエクスプレス沿線のポテンシャルを活かして、世界の最先端研究の展開や日本経済の持続的成長を促す研究開発・産業連携軸「イノベーション・コリドー」を構築する。





国際的な学術・教育・文化空間の形成

一生「学び」を楽しむことのできる、知的好奇心を刺激するまち

方針 3-1

国際化に対応した生活環境を整え、世界をリードする研究・教育機能を強化する「10の研究・教育機関の誘致」

重点 施策	1) 外国人がストレスなく暮らすことができる生活環境の充実	▶外国人向け・短期滞在者向けの住宅提供又は居住支援 ▶外国人に常時対応可能な医療、子育て支援等の生活支援の充実 ▶外国人に対する情報提供・相談・各種支援を行うボランティアの育成 ▶インターナショナルスクールの誘致や既存の学校における外国籍児童・生徒の受け入れ環境の充実 ▶街なかのサインや情報案内の外国語対応の推進
	2) 世界レベルの研究機関の集積の促進	▶東京大学・千葉大学キャンパスにおける学部・大学院・研究所等のさらなる充実 ▶イノベーションキャンパス地区や、学術教育研究ゾーンにおける土地条件やアクセス環境整備などによる教育・研究機関の立地環境の向上 ▶研究機関立地への補助や融資等の優遇措置
	3) 国際的な学術交流を促す空間とプログラムの整備・強化	▶国際会議が可能なホールや会議室の充実 ▶民間企業や国際協力機関等のスポンサーによる世界各地からの教育・研修プログラムの誘致

方針 3-2

これからの社会を担い世界の最先端で活躍する人材を育成する基礎的な教育環境を充実する

重点 施策	1) 世界レベルの学生を育てる教育・生活環境の整備	▶インターナショナルスクールなど特色ある教育施設の誘致 ▶日常的に国際的な学術交流が行われるキャンパス環境の整備
	2) 小中学校及び高等学校における質の高い教育環境整備	▶柏の葉小学校・柏の葉中学校における小中連携教育の実践 ▶東京大学・千葉大学と地域の高等学校との高大連携による高質な科学教育の推進 ▶東京大学・千葉大学や地域の人材・施設と連携した起業家教育・ICT教育・国際教育・持続可能性教育プログラムの充実・強化
	3) 子供を対象とした独自の教育プログラムの推進	▶大学や地域の人材と連携した子ども向け教育プログラムの定着化(未来こどもがっこう等) ▶ピノキオプロジェクトの定着化とプロモーション ▶さわやかちば県民プラザにおける若者を対象とした実践講座(ヤングパワームーブメント)の実施

方針 3-3

大学と連携した住宅を提供し、学びのあるライフスタイルを推進する

重点 施策	1) 大学の教育プログラムと連携したキャンパスリンク住宅の提供	▶大学教育と連携したプログラムがついた一般住宅の供給促進 ▶研究者のための柔軟性の高い住宅の供給促進
	2) 地域と連携した実践的な教育プログラムや大学の研究活動等の推進	▶フィールド型の演習スタジオの実施 ▶学生による地域活動の支援(助成、連携等)
	3) 大学の地域開放による、市民と大学が交流し学び合う場の創出	▶大学図書館の24時間開館など、大学施設の開放と市民利用促進 ▶所蔵図書や講義等、大学の「知」のデジタルアーカイブ化と公開 ▶千葉大学カレッジリンク・プログラムの実施 ▶先端的な取組みに触れながら、実践を学ぶまちづくりスクールの実施 ▶「街まるごとオープンキャンパス」の実施・拡大
	4) 生活レベルでの国際交流環境の充実	▶柏市国際交流協会(KIRA)や市民団体等による国際交流プログラムの充実

方針 3-4

国際キャンパスタウンにふさわしい文化活動・芸術活動を育成する

重点 施策	1) 地域連携による広域での文化・芸術活動の推進	▶常磐線、TX沿線地域における芸術大学・美術大学・アート団体等と連携したプロジェクトの促進
	2) 文化・芸術をテーマに人々が柏の葉に集まり交流するための「場」づくり	▶国際キャンパスタウンにふさわしい、文化・芸術のための場の創出とイベント実施
	3) 市民レベルでの文化・芸術活動の推進	▶市民レベルでの文化・芸術活動の仕掛けと支援 ▶学生やクリエイター向けの住宅供給の促進や優遇制度の整備

■ 地域環境国際化戦略(抜粋)

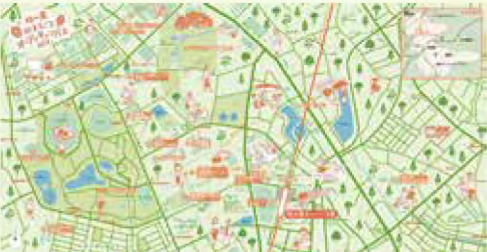
2017年度、国際化部会にて「地域環境国際化戦略」を策定。2020年までのコンセプトを「2020年までに滞在期間や言語、宗教の違いによって分け隔てられることなく、誰でも日本人と同水準で柏の葉での暮らしや文化を楽しめるようにする」と定め、4つの方針と16のプロジェクトを提示した。

4つの方針と16のプロジェクト

情報の提供 ①街なかの案内サインの外国語対応の充実 ②外国人が必要とする既存情報の発信改善	生活の支援 ③生活ニーズに応える場や施設等のハード整備 ④生活ニーズに応える持続的な支援体制等のソフト整備
・駅や駅周辺街区の施設案内や地図の英語案内の強化 ・バス案内表示や各バス停の英語案内の強化 ・柏の葉エリアのガイドマップの作成・配布 ・SNS上での生活情報の提供・質疑応答 ・冊子による日常生活情報の提供 ・既存webサイトでの英語によるイベント情報の発信	・自転車や自動車の利用に関わる英語案内の強化 ・外国籍者が利用できる家具付き賃貸住宅の整備 ・既存の幼稚園、小・中・高校の外国籍者の受け入れ環境の充実 ・銀行や行政窓口などの生活基盤施設での英語案内の強化 ・宗教上必要となる生活情報や環境の提供 ・外国語対応可能な病院情報の提供 ・外国籍者向けの幼稚園、小・中・高校の整備 ・外国籍者と地域の日本人の交流機会の提供 ・英語による市民活動・クラブ活動機会の提供 ・生活支援ボランティアの体制構築・運用

■ 街まるごとオープンキャンパス

10月～11月にかけて、東京大学・千葉大学をはじめ、柏の葉の立地施設におけるイベントの推進や広報連携を図る「街まるごとオープンキャンパス」を継続している。



■ まち全体での学び・文化芸術系プログラムのさらなる展開



ピノキオプロジェクト
地域の子も達が主役となって活動する参加型のアートプログラム



未来こどもがっこう
研究者や住民等、柏の葉の人材を活かし地域ぐるみでつくる体験型の学びの場



KSEL・科学教育
東大柏キャンパスの大学院生を中心に結成された科学コミュニケーション団体



ヤングパワームーブメント
さわやか千葉県民プラザが主催する学生や若者向けの社会実践プログラム



都市環境デザインスタジオ
柏の葉をフィールドに実施している大学院の実践的アーバンデザイン演習



小学校連携
UDCKでは地域の小学校とも連携しまちでの体験型学習を支援



まちづくりスクール
UDCKと柏市まちづくり公社が主催する市民向けの実践的まちづくり講座



千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム
社会問題を解決するために、市民と大学が一緒になって学び考えるプログラム



柏の葉わくわくコンサート
東大・UDCK・柏市が協力して開催するクラシックコンサート



まちなかでのアート展開
PC二番街には様々なアート作品が展開(写真:「マスターピース」by佐藤好彦)



ハートフルコンサート
「柏の葉カレッジリンク・ネットワーク」が定期開催するソプラノ歌手コンサート



アート・ワークショップ
未来こどもがっこう等では子ども向けのアートのワークショップも実施

4

サスティナブルな 移動交通システム



環境に優しく便利で快適なモビリティが、
暮らしの質を高め活力を育むまち

方針 4-1

公共交通の充実により環境負荷の低減および
都市間・地区内の移動を円滑にする

重点施策

- 1) 次世代型環境都市モデルに相応しい公共交通システムの導入
 - ▶ 既存の路線バス・企業バス等をベースにした新たな域内循環交通システムの導入
 - ▶ 自動運転など新たな技術を取り入れた次世代型の公共交通システムの導入
 - ▶ 公共交通機能の拡充に対応した駅前広場の効率的な運用、機能集約等の検討
- 2) 柏の葉エリアと柏中心市街地2つのコアを中間地域も経由しながら結ぶ公共交通の利便性向上
 - ▶ 道路整備と合わせた幹線バスの再編・拡充による利便性向上
 - ▶ ITSの導入など新たな技術を取り入れた次世代型の公共交通システムの導入
- 3) 公共交通に係る環境負荷の低減
 - ▶ EVやFCVの導入などによる、公共交通に係る環境負荷の低減

方針 4-2

歩行者と自転車の楽しい移動を促すネットワークをつくる
「自転車分担率の10%増加」

重点施策

- 1) スマートな自転車利用を促すための自転車走行空間のネットワーク整備と駐輪場の戦略的な配置と整備
 - ▶ 柏の葉エリアにおける自転車走行空間のネットワーク拡充
 - ▶ 「高架下利用マスタープラン」に基づく柏の葉キャンパス駅周辺における駐輪場の計画的確保
- 2) 利便性が高く自立運営が可能なサイクルシェアリングシステムの実現
 - ▶ 民間事業者による自立運営を基本としたサイクルシェアリングシステムの導入促進
- 3) 地域資源を活かす魅力ある歩行環境のネットワーク形成
 - ▶ アーバンデザイン戦略(目標7)やウォーカブルデザインガイドライン(目標5)に基づく、気持ちのよい歩行者空間ネットワークの充実

方針 4-3

自動車利用を適正化するため総合的な施策を展開する
「自動車分担率の10%低下」

重点施策

- 1) カーシェアリングの実施などによる自動車利用の削減
 - ▶ 民間事業者による自立運営を基本としたカーシェアリングシステムの導入促進
 - ▶ フリンジパーキングの整備による街区内や駅付近への自動車侵入の抑制
- 2) 環境に優しいモビリティの導入と利用の促進
 - ▶ カーシェアリングや公共性の高い自動車における低環境負荷型車両の積極導入
 - ▶ EV・FCVなどの環境負荷の低い自動車を優遇する交通マネジメント

方針 4-4

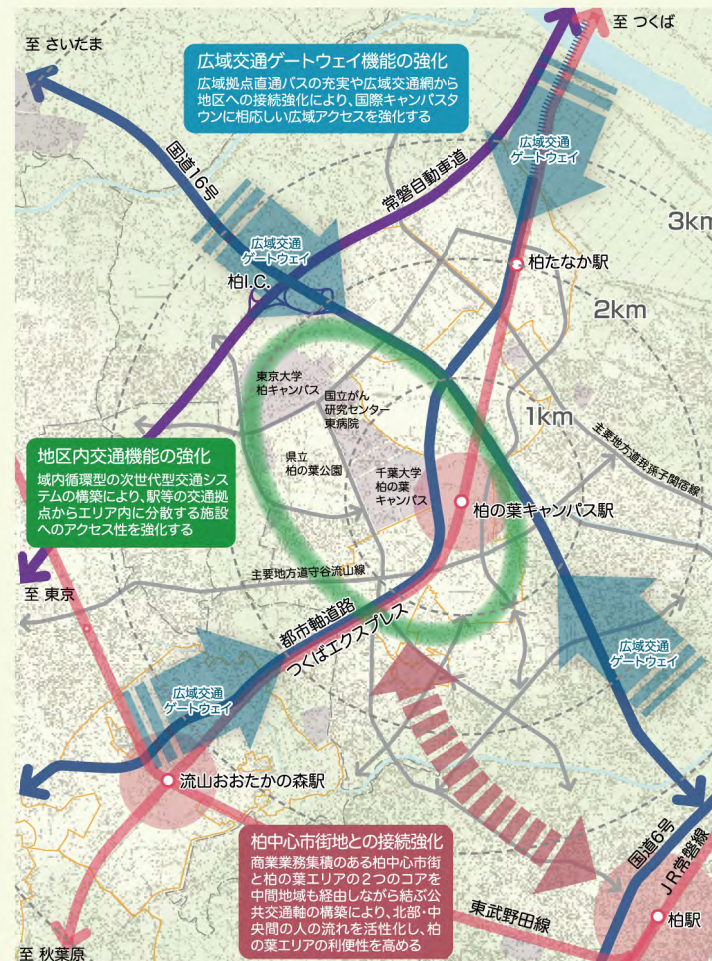
ITS情報システムを活用したモビリティマネジメントを行う

重点施策

- 1) ITSを活用した交通情報の収集・分析・提供システムの構築
 - ▶ ITS 地域研究センターの構築
 - ▶ カーナビや携帯電話、デジタルサイネージ等を活用した手に届きやすく、わかりやすい情報提供方法の確立
- 2) 交通に係る情報集約と案内を行うコンシェルジュ機能の設置
 - ▶ 駅前において、ITSを利用しつつ人が介在する柏の葉エリアの総合案内所の設置

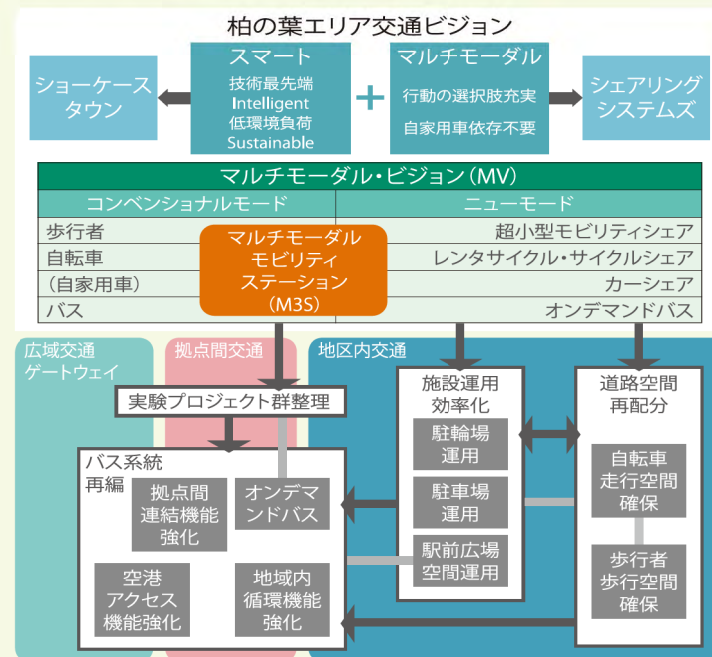
■ 移動交通に係る3つのテーマ

柏の葉エリアを中心に、「広域交通ゲートウェイ」、「地区内交通」、「柏中心市街地との拠点間交通」の3つを主対象に、持続可能な次世代型の移動交通システムを構築する。



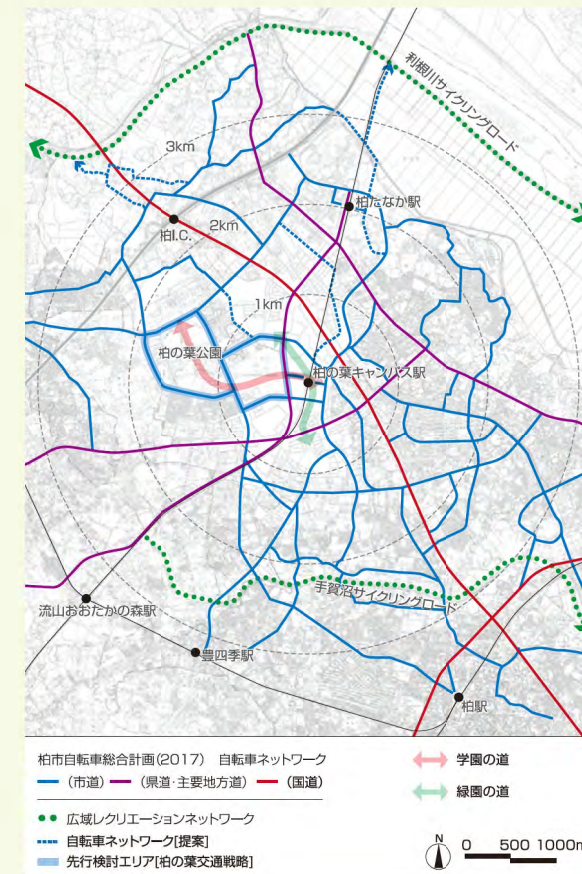
■ マルチモーダル・ビジョン

新たな交通手段(ニューモード)の実証実験結果を取り入れ、既存モードと組み合わせながら、「スマート」+「マルチモーダル」な移動交通環境を実現する。



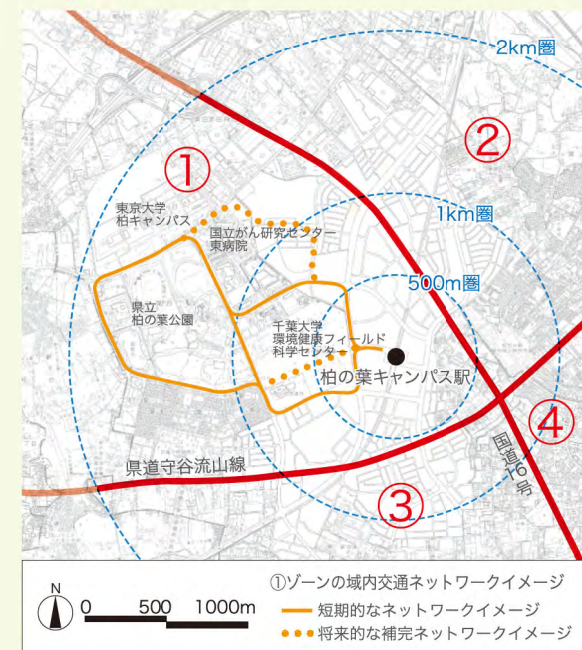
■ 自転車走行空間ネットワークイメージ

柏市自転車総合計画に示すネットワークをベースに、自転車走行空間のネットワーク形成を図る。駅から柏の葉公園一帯において先行整備を検討する。



■ 柏の葉キャンパスエリアの域内交通ネットワークイメージ

- ・駅を中心に500m〜2キロ圏の移動容易性を向上させる。
- ・主要幹線道路で圏域を分割し、エリア内の主たる施設が集積している①ゾーンにおいて先行的に域内移動交通の充実化を図る。
- ・道路整備状況を勘案しつつ、主要施設を効率的に結ぶルートを選定する。
- ・従来型の路線バスにとらわれず新たなモビリティ導入を検討する。





健康を育む 柏の葉スタイルの創出



あらゆる世代の健康づくりをサポートし、
地域の中で一生健康で暮らせるまち

方針 5-1

健康でアクティブな暮らしを支える生活空間、歩行環境を充実させる

重点
施策

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1) 歩きやすく快適・安全な歩行空間ネットワークの整備 | ▶「ウォーカブルデザインガイドライン」に基づく、歩行を誘発する街路環境や街路ネットワークのモデル整備
▶民間敷地内における通り抜け通路の整備推進や、大学構内や官公庁施設等の一般開放の促進 |
| 2) 休憩場所やサインなど、歩くことを支える施設の充実 | ▶街なかにおけるベンチや休憩施設の計画的な整備と案内の充実
▶コース設定とマップやサイン、インターネットなどによる情報提供の充実 |
| 3) 歩くことによる健康づくり推進のためのイベントや支援プログラムの提供 | ▶ウォーキングやマラソンなどのイベントの定期開催
▶健康づくり活動拠点としての柏の葉公園の活用促進 |

方針 5-2

農や食の文化を育む空間と生活を充実させる

重点
施策

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1) 農のあるライフスタイルを実現する施設やプログラムの提供 | ▶農業体験農園の整備と運営（柏たなか農あるまちづくり）
▶農産物直売所の充実やマルシェなど、地域の農にふれる機会の充実 |
| 2) 農や食、健康をテーマにする市民の学びや体験の場の提供 | ▶食と健康に係る学習プログラムの実施
▶飲食店と連携した、地域の食材を活かし健康にも配慮した「食」文化の育成 |
| 3) 地域の農と食の文化の育成 | ▶農商工大連携による、地域の農と食のプロモーション活動 |

方針 5-3

人々が生きがいをもって支え合うコミュニティを育む

重点
施策

- | | |
|----------------------|---|
| 1) 地域コミュニティの育成 | ▶市民活動団体の支援や活動連携のための仕組みの構築 |
| 2) 社会協働支援プラットフォームの構築 | ▶地域の支え合いによる子育てサポートプログラムの推進
▶元気高齢者の社会参加支援プログラムの推進 |

方針 5-4

最先端の知識と技術を用いた健康サポートを行う

重点
施策

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1) 街の健康づくり拠点の整備・運営 | ▶フレイル予防等を総合的にサポートする健康づくり拠点の整備と運営
▶東大などが連携する十坪ジムなどの健康モデルの普及 |
| 2) 個人の健康情報管理システムの構築 | ▶電子カルテと連携した個人健康情報（PHR）管理システムの構築と運営 |
| 3) 千葉大学予防医学センター「ケミレスタウン」の展開 | ▶ケミレスタウンの研究推進とその成果を活かした健康志向住宅の普及 |

方針 5-5

“ワーク＆ライフ・ハーモニー”を実現する多様な働き方・暮らし方を支援する

重点
施策

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1) 暮らしながら働くことをサポートするワーキングスペースや住宅の提供 | ▶住宅に近接したサテライトオフィスやコワーキングスペースの充実 |
| 2) 暮らしながら働くことをサポートするサービスの提供 | ▶地域人材を活かしたジョブマッチングサービスの実現 |

健康長寿都市に向けた取り組み概念図

健康な方はより健康に、未病や近い将来に介護が必要になる方々には予防を、そして介護が必要になった方々には手厚い在宅ケアが提供される。すべての市民が身体の状態に不安なく過ごすことができる街の創造を目指す。個人の健康関連データに基づき、最適なアドバイスや支援を行う「スマートヘルスケアシステム」と、健康サポート拠点「まちの健康研究所あ・し・た」を両輪に、運動・食・交流のための暮らしの環境が下支えする柏の葉モデルの健康ライフスタイルを構築する。



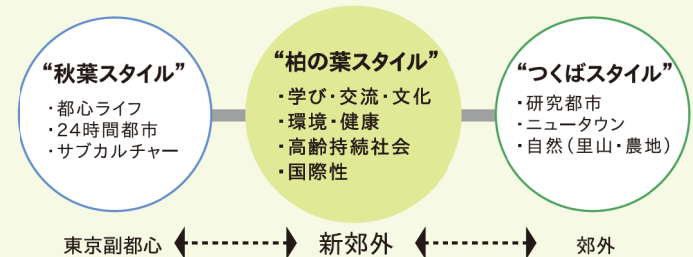
ウォーカブルデザインガイドライン

魅力的な体験や景観に溢れ、居心地のよい快適な街では、ウォーカビリティ（歩きやすさ）が高められ、知らず知らずのうちに街歩きを楽しみ、歩行量が増えると考えられる。国内外のエビデンスや事例を集め、まちづくりの具体的な手法を整理したウォーカブルデザインガイドラインを策定し、今後のまちづくりの参考・指針とする。



TX沿線の生活スタイルと“柏の葉スタイル”

都心型の秋葉原と、自然と研究機能を主とするつくばの中間点にあたる柏の葉では、その両面を備えつつ、環境・健康に配慮した持続社会の新たなライフスタイルを築く。



ワーク＆ライフ・ハーモニーの概念図

柏の葉の環境・人材を活かした「暮らしながら働く」ことの支援（ワークスペース提供・交流空間整備・ジョブマッチング・スキル教育等）





公・民・学連携による エリアマネジメントの実施



支えあいによって地域の暮らしと
活力を持続・向上させる自律的なまち

方針 6-1

暮らしの質を高め、地域への愛着を育む
(住民満足度の維持・向上、地価水準の維持)

重点
施策

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1) 駅を中心として都市機能や生活機能を
拡充する | ▶ 柏市北部地域の都市拠点機能を支える公共施設の整備
▶ 商業、金融、教育、文化など都市機能や生活機能を有する民間施設等の
駅周辺立地の推進 |
| 2) 持続的なコミュニティマネジメント体制を
整える | ▶ 田中地域コミュニティエリアの再編並びにまちづくり協議会とふるさと協議会の
関係の調整
▶ 地域交流活動(市民主体イベント)の推進
▶ 地域美化・緑化活動の推進
▶ 地域防災・安全活動の推進
▶ 地域健康・福祉活動の推進 |
| 3) 地域の祭りや文化的な催事を活性化し
独自の文化と愛着を育む | ▶ ふるさと田中みこし祭りの実施
▶ 夏まつりやハロウィンなどコミュニティが主体となった祭りの実施 |

方針 6-2

柏の葉独自の価値を育み、発信する
(交流人口の増加、外部からの評価)

重点
施策

- | | |
|--|--|
| 1) 一体的なデザインマネジメントで
地域アイデンティティを確立する | ▶ 柏の葉のロゴ・サイン等の展開
▶ オリジナリティのある公共案内サインの計画・整備と管理 |
| 2) イベント連携により年間を通じて
効果的なプロモーションを実践する | ▶ 地域と大学連携のプロモーション「街まるごとオープンキャンパス」等のイベント連携 |
| 3) 広報ツールをつかった戦略的なPRを行う | ▶ インターネットやマスコミ等を活用した外に対するまちの情報発信
▶ 視察・研修の受け入れ体制の整備とガイドツアーの実施
▶ フィルムコミッション・アーツコミッション等の体制づくり |

方針 6-3

柏の葉キャンパス駅周辺を起点に公・民・学の連携による自律した都市経
営の仕組みを整える

重点
施策

- | | |
|------------------------------|---|
| 1) 地域の担い手育成とまちづくりへの参画 | ▶ まちづくりスクール等を活用した地域活動団体の組成と支援
▶ 千葉大学と連携した市民組織「カレッジリンク・ネットワーク」の活動支援 |
| 2) 持続的なエリアマネジメントの枠組み構築 | ▶ 柏の葉キャンパス駅周辺やイノベーション・キャンパス地区における、公・民が連携・役
割分担した公共空間の持続的な維持管理・活用体制の構築 |
| 3) 公・民・学の連携による構想の
フォローアップ | ▶ UDCKを核とした構想の継続的な推進・フォローアップ
▶ 長期的視点に立った柏の葉エリアの成長～持続戦略の検討と指標等による
継続的な成長管理
▶ 柏の葉国際キャンパスタウン構想の周知・共有の推進 |

■ エリアマネジメントの枠組み 4つのマネジメント

より質の高い空間形成を主導する「デザインマネジメント」と、整備された空間の維持管理や活用を担う「メンテナンスマネジメント」、対外的な魅力発信や交流促進を行う「プロモーションマネジメント」と、地域に暮らし、働き、学ぶ人々のための安全・安心で利便性の高い生活環境を維持する「サービスマネジメント」。この4つのマネジメントを意識しながら、柏の葉におけるエリアマネジメントの目的を整理し、各者の役割分担や運営体制を構築する。

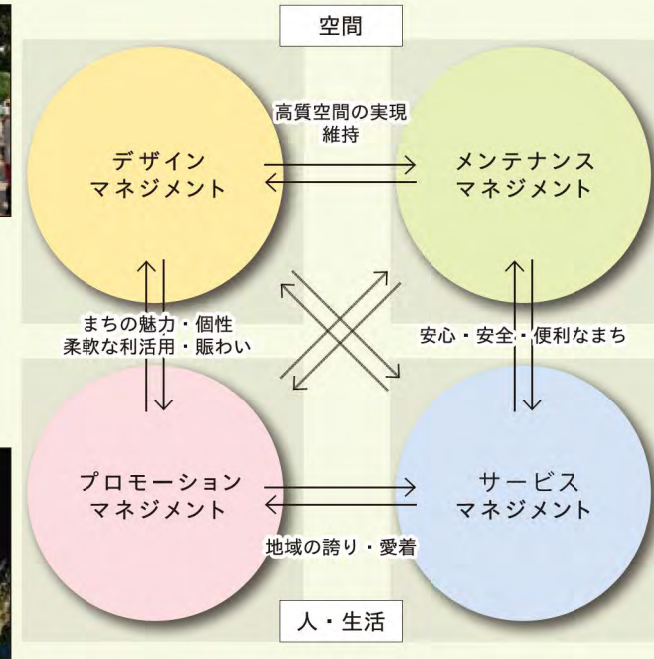


魅力ある都市空間創出
(柏の葉キャンパス駅西口高質化)

発展・展開



公共空間を活用した特色あるイベント
(イルミネーション)



地域の手による公共空間の維持管理
(駅前清掃活動)

維持



安全で安心して暮らせるまちづくり
(炊き出し訓練)

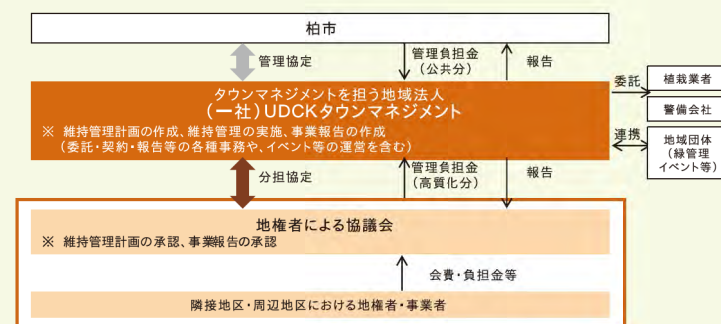
■ UDCKを核とする自律的な都市経営イメージ

柏の葉国際キャンパスタウン構想の推進機関として、「柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)」を設立・運営する。UDCKを核に、公共・民間・大学が連携することで、新たな学び・提案を生み出し、それを実践・事業化し、地域に継続・定着させるという、自律的に進化する都市経営を行う。



■ タウンマネジメント法人による公共空間管理イメージ

タウンマネジメントを行う法人を設立し、地域(地権者・事業者等)の資金等を元手として、公共空間の維持管理をはじめとするマネジメント事業を行う。



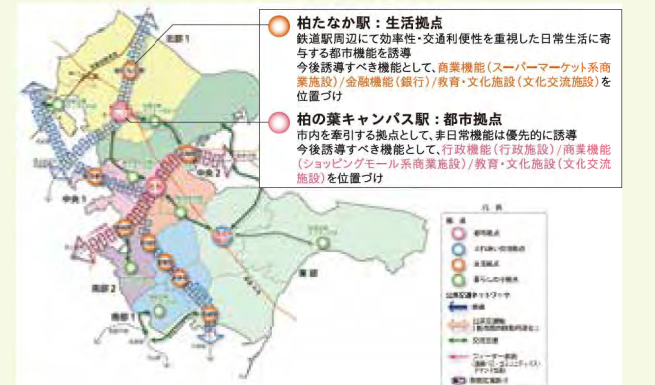
■ コミュニティエリアの再編方針 まち協との関係

人口増加を背景に、田中地域コミュニティエリアを将来的に概ね国道16号で分割する。先行して、柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会の区域と柏の葉1～6丁目の区域で柏の葉地域コミュニティエリアを新設する。



■ 柏市立地適正化計画 柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅の誘導施設

柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅周辺は都市機能誘導区域と位置付けられ、各種施設の誘導方針が示されている。





質の高い 都市空間のデザイン



大学キャンパスのように豊かな緑のなかに
賑わいが映える快適なまち

方針 7-1

国際キャンパスタウンを象徴する新たな街並みを形成する

重点
施策

- 1) 柏の葉を印象づける骨格街路と街の入口を整える
 - ▶ 緑の骨格街路としての都市計画道路等の緑化・景観誘導
 - ▶ キャンパスタウンの領域をつくる街角の空間演出
- 2) 国際キャンパスタウンの顔となる優れた街並み景観と賑わいある都市空間をつくる
 - ▶ 柏の葉キャンパス駅周辺地区における賑わいある景観形成と空間創出
 - ▶ イノベーション・キャンパス地区における都市の賑わいと水・緑の環境が調和した景観形成と空間創出
 - ▶ 直埋設方式等による電線地中化の推進
 - ▶ 柏の葉公園周辺地区における良好な街並み景観と都市空間の保全
- 3) 大学が街へ広がる「学園の道」をつくる
 - ▶ 大学内における街へ開いた空間整備（千葉大学柏の葉キャンパス・東京大学柏Ⅱキャンパス・東京大学駅前サテライト棟）
 - ▶ キャンパスタウンの風格と賑わいを表出する駅前通りの景観誘導

方針 7-2

受け継がれてきた緑地環境を活かした緑園のまちを形成する

重点
施策

- 1) 緑の中に多様な活動が見える「緑園の道」をつくる
 - ▶ 街路空間と協調した沿道緑化誘導
 - ▶ 沿道における生活機能誘導とオープンスペースの一体的活用による賑わいづくり
- 2) 過去と未来をつなぐ水・緑の拠点を形成する
 - ▶ こんぶくろ池自然博物公園を核に緑の環境を広げる
 - ▶ 正連寺地区を拠点とした水と緑の回廊形成
 - ▶ 野馬土手遊歩道を軸とする緑豊かな地区環境整備
 - ▶ 地域の自然条件を踏まえた植栽の種類や配置の推進
- 3) 農あるまちなみ景観づくりを推進する
 - ▶ 「柏たなか駅周辺地区整備方針」に基づくまちづくり
 - ▶ 「柏たなか地区：風景づくりの手引」を用いた景観誘導

方針 7-3

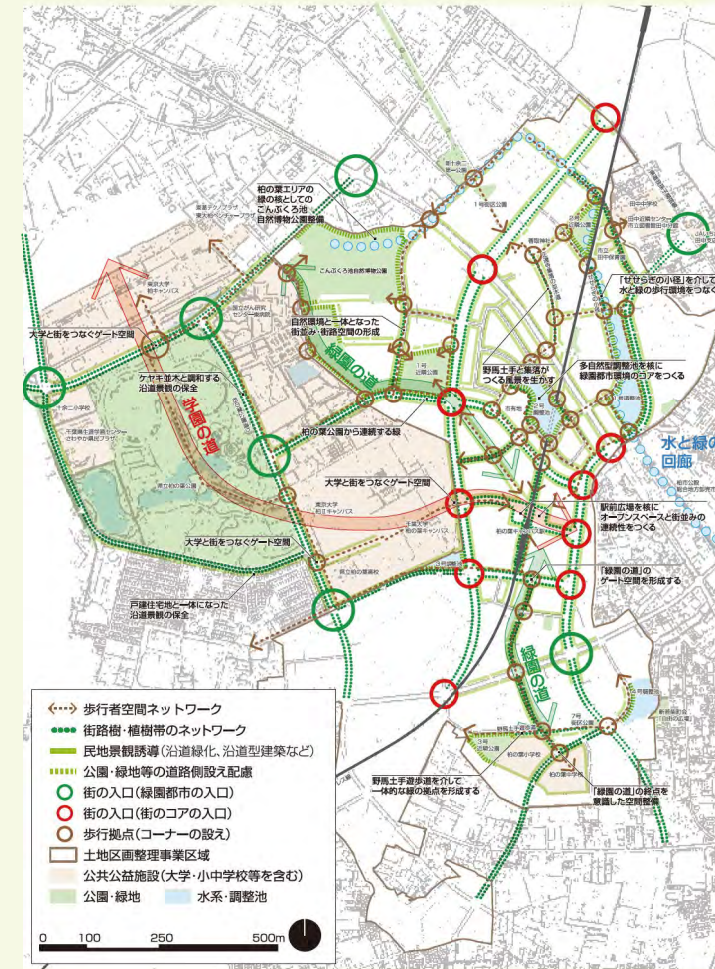
UDCKを中心にアーバンデザインを推進する

重点
施策

- 1) 共通指針に基づきアーバンデザインを戦略的に進める
 - ▶ 柏の葉アーバンデザイン戦略に基づく戦略的なデザイン協議の推進
 - ▶ 景観重点地区の拡大など柏市景観計画の内容の充実
- 2) デザインマネジメントの仕組みを構築し、実践する
 - ▶ 公共施設の建設に際してデザインコンペやデザインレビューの実施
 - ▶ 景観形成基準等の充実と保留地や公有地等を活用した先導的な景観形成の推進
 - ▶ 景観整備機構であるUDCKが主体となった景観相談・事前協議の推進
 - ▶ 市民講座・まち歩き等の景観まちづくりの普及啓発
- 3) アーバンデザインにおける柏の葉モデルをつくる
 - ▶ 郊外住宅、商業施設、公共施設等に係るモデル的なアーバンデザインの実現

■ 柏の葉アーバンデザイン戦略（内容の抜粋再構成）

①建物・道路・空地など「都市空間の骨格」の整備、②緑豊かなキャンパスと街が融和した「創造的環境」のネットワーク化、③最先端の知・産業・文化を育む「都市活動の場」の形成の3点を理念に戦略を策定。これに基づき、質の高い空間デザインを推進する。

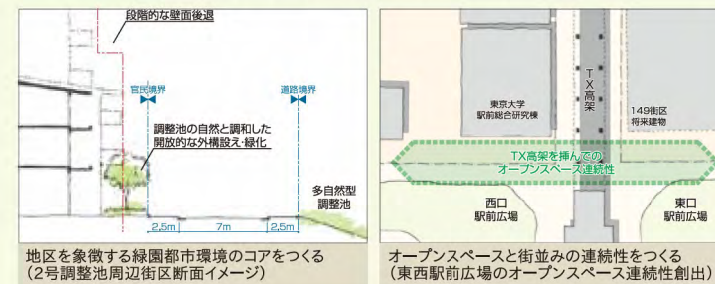


■ 柏の葉アーバンデザイン戦略 個別戦略と空間形成イメージ(抜粋)

「柏の葉アーバンデザイン戦略」に示す基本的な空間形成の考え方を、柏市が定める景観形成基準等に落とし込みながら、具体的な誘導を図る。



「街の入り口」となるまちかどを整える
(左:街区角における広場空間(二番街)、右:街区角のシンボルツリー(柏の葉小))



地区を象徴する緑都市環境のコアをつくる
(2号調整池周辺街区断面イメージ)

オープンスペースと街並みの連続性をつくる
(東西駅前広場のオープンスペース連続性創出)

■ イノベーションキャンパス地区まちづくりビジョン

柏の葉キャンパス駅北側の重点エリア「イノベーションキャンパス」地区では、詳細なまちづくりビジョンを策定し、公共空間の整備方針や環境配慮方針、建築物に係るデザインガイドライン等を示している。



■ 柏たなか駅周辺地区整備方針

柏たなか駅周辺地区整備方針においては、駅周辺の公園や調整池をつなぐ歩行者ネットワーク形成や、駅周辺街区の土地利用や街並み形成に係る方針を示しており、これに基づくまちづくりを推進する。



▲水と緑のネットワークを形成する街路景観イメージ



イノベーション・フィールド都市



常に最先端の取りくみを受け入れながら、
変化しつづけるまち

方針 8-1

Society 5.0の実現に向けた実証実験基盤を構築する

重点
施策

- 1) 実証実験・研究に係る市民参加を促進する
▶実証実験に参加する市民モニター制度の構築
▶実現性・実施効果を高めるためのプロジェクト連携のコーディネート
- 2) 国の支援制度や特区制度などを活かした先進的取組みへの総合的な支援を行う
▶特区制度の導入などによる規制緩和を実現しやすい環境の整備
▶スマートシティモデル事業等を活かした国からの補助や企業投資の呼び込み
▶大学敷地・民間敷地に加え、公共空間も活用した先進的取組みの実験
- 3) 地域のデータベースの集約と統合的な管理・運用体制を構築する
▶行政データや個々の組織で所有するデータのオープンデータ化の推進
▶産業技術総合研究所と連携した地域のデータベース(ビッグデータ)の統合的な管理・運用体制の構築

方針 8-2

企業や研究機関へのPRを通じて新たな実証実験を呼び込む

重点
施策

- 1) リサーチコミッションを設置する
▶柏の葉での実証実験に係る企業や研究者、研究機関からの提案の受け入れ窓口の整備と各種支援の実施
- 2) 実証実験を呼び込む都市プロモーションを実施する
▶パーソナルモビリティや自動運転、シェアリングシステム等の新モビリティによる交通プロモーションの実施
▶AI・IoT分野における実証実験を呼び込み支援するネットワークの構築や機会の提供
▶先端的取組みの街なかでの「見える化」の推進
▶企業や投資家への働きかけと研究や産業のPR

方針 8-3

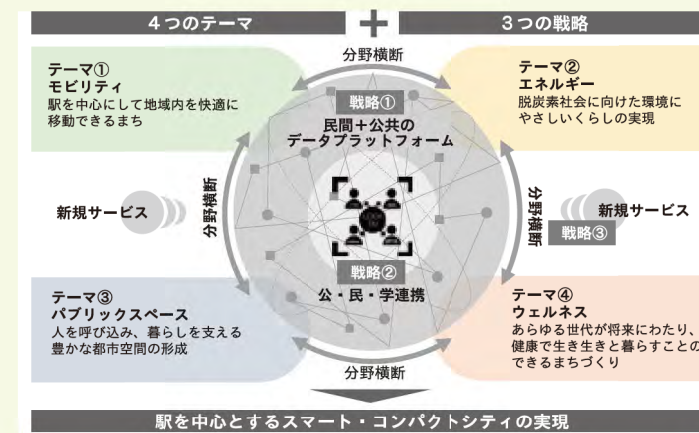
実験の成果を評価・蓄積するとともに、柏の葉モデルとして市全域・県内各所・全国・世界に普及・展開する

重点
施策

- 1) 先導的な研究・実験・実践の成果を公開し、必要とされる地域に普及・展開する
▶千葉大学における植物工場・ケミレスタウン等の研究成果の公開と普及・展開
▶医療、環境、都市開発分野等の研究や実験の成果、まちづくりの中での先導的取り組みの開発途上国等への普及・展開
▶各種施設や大学が連携した街全体での視察・見学ツアー・研修プログラムの実施
- 2) 先進都市間連携・交流を深める
▶先進都市間の緊密なネットワークの構築
▶コンベンションの誘致
- 3) 柏市・千葉県全域への取り組みの展開と市内・県内他地域との連携・交流
▶柏の葉での研究・実証成果の柏市・千葉県内各所のまちづくりへの展開
▶市内各地域とのプロジェクト協力や相互の事業展開による、柏市全域としての先導的・持続的なまちづくりの実現
▶千葉県内各地域の多様な課題と、柏の葉の新たな研究開発・ビジネスとのマッチングの推進

■ 柏の葉スマートシティモデル事業の全体像

サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する「超スマート社会」=「Society5.0」の実現を目指し、4つのテーマと3つの戦略で「駅を中心とするスマート・コンパクトシティ」を実現する。



■ イノベーションフィールド柏の葉

AI・IoTおよびライフサイエンス・メディカルの2分野にフォーカスを絞り、柏の葉の街全体でプロジェクトの募集・受け入れを行い、新たな製品・サービスを共に生み出していくプラットフォームを2019年2月に構築。実証プロジェクトを通して、そこで得られた声を企業へフィードバックする好循環を創り出す。

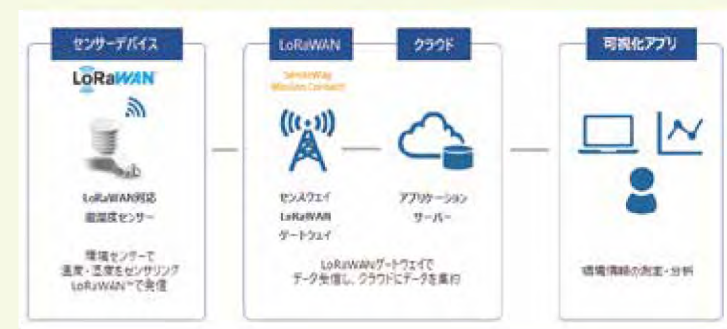


データセンシングの例



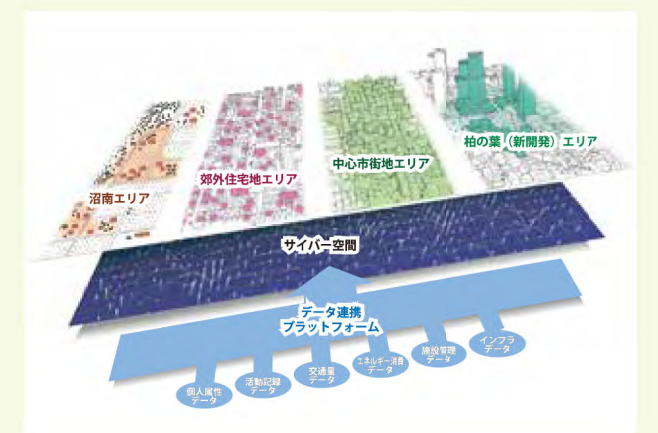
■ LoRaWANを活用したまちの情報のセンシングと可視化

IoTセンサーで計測したデータは、IoTの長距離・低消費電力通信に適したLoRaWANネットワーク経由で収集し、クラウド上のデータプラットフォームに蓄積。データは可視化・共有し、まちの課題解決や新たな産業創造につなげる。



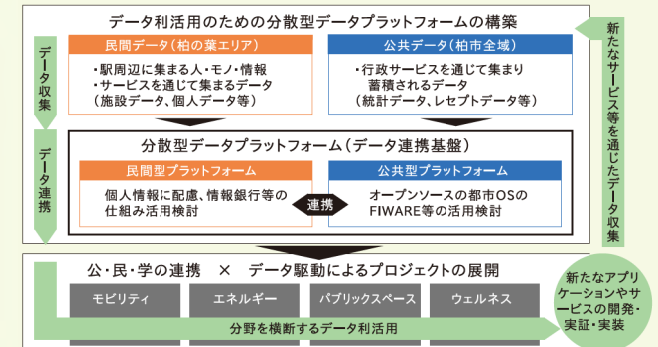
■ 柏市全域に展開するデータ連携プラットフォームイメージ

柏の葉において、実証実験を通じて様々なセンシングデータの収集を図る。公共データと民間の所有データの統合、オープンデータ化に向けた検討を行い、データ連携プラットフォームの構築を推進し、市全域への展開を図る。



■ 分散型データ連携プラットフォーム

個人が自己の情報を管理できるデータの個人主権が確保され、エリア内の様々なデータをセキュアな分散型で保有管理できる、エストニア型データ連携プラットフォームの構築に向けた検討を進める。





柏たなか地区 2019年12月



柏の葉キャンパス地区 2017年8月

